Bチャレ　新たなつながり部門　実績報告書

団体名	文京アートプロジェクト	**作成日**	1月　１４日
事業名	街じゅうボーダーレスアートミュージアム構想		
協働団体	・特定非営利活動法人アート・コミュニケーション推進機構(PARC) ・一般社団法人タップタップラボ ・アカデミー推進課 ・区内障害者施設（リアン文京、若駒の里、工房わかぎり、は～と・ピア２、ワークショップやまどり、小石川福祉作業所） ・区内ギャラリー（高橋工房、suidoギャラリー、NPO地縁の和） ・区内町会（武島町会、音羽九桜町会、小日水町会） ・区内図書館、大学、あんしん生活拠点、障害者就労支援センター、文京水道郵便局口		
自団体及び協働団体 の役割分担	・自団体：企画提案、進行管理、アート作品発掘・選定、展示プラン ・PARC：コミュニケータによる鑑賞サポート・ワークショップの実施 ・タップタップラボ：iPad貸与　　・玉プロダクション：設営 ・アカデミー推進課：ギャラリーシビック提供、広報支援 ・区民課：B-ぐる及び区設掲示板へのポスター掲示 ・区内法人等：ポスター掲示、及びPR協力 ・区内図書館、地域活動センター等：広報協力 ・区内障害者施設：利用者作品の提供、ワークショップ開催等の協力、展示協力 ・高橋工房：スペースの提供、ワークショップの実施 ・文京メディアブリッジ：ワークショップ素材作成協力 ・町会：掲示板へのポスター掲示、イベント時のチラシ配布 ・NPO地縁の和：スペースの提供 ・あんしん生活拠点、文京水道郵便局：展示スペースの提供（クイズラリー協力）		
提案背景・目的	文京区の潜在的アート作品を展示することにより、区の魅力（文化的価値）向上に寄与するとともに、コロナ流行などによりストレスの多い区民の日常に潤いを与えること、より多くの方が文化に触れ楽しむ機会をつくることを目的として、本企画を提案しました。 令和４年度Bチャレ事業で同テーマの提案をし、文京シビックセンター・ギャラリーで展覧会「Bunkyo Brut～はじまりのつながり展」を開催しました。展示作品は、区内障害者施設の日中活動で制作された作品群と、本会のために施設で取り組んでいただいた「名画の模写」です。それらの作品を起用した開催周知用ポスター（12種類）を区設掲示板等に掲示することで、より多くの区民の目に触れる工夫もしました。また、開催当日はアート・コミュニケータが会場に常駐し、対話による鑑賞やワークショップを行うことにより、作品への理解を促しました。当日は4日間で500名近い来場があり、参加者アンケートでは回答者の4/5以上から「期待以上に楽しめた」との回答をいただきました。展示作品群を地域の魅力と捉える方、存在を知れてよかったと言ってくださる方が多く、「ぜひ継続してほしい」「来年も開催してほしい」との声を得ました。出展施設からは「展覧会を経て利用者（＝作者）の態度に変化が見られた」「職員の意欲が増した」という報告も複数あがっています。そうした反響から、「地域で生まれた潜在的なアート作品に光をあてることで、街にエネルギーを吹き込む」という狙いで区内障害者施設の作品に特化した展示は、方向性として間違っていなかったと思えました。 令和５年度は、その「Bunkyo Brut」を起点として、当初の企画通りさらに街なかへと展示の場を広げていきたいと考えます。アール・ブリュット作品は、普段、美術鑑賞には縁遠い方でも馴染みやすいジャンルであると感じます。また美術に詳しい方にとっても新鮮な感動を得ることが期待できます。特にストレスの多い現代においては、地域に潤いをもたらすこと、そしてそれら作品群を媒介とした来場者同士の交流のきっかけ作りともなり得ます。区の文化事業として発信することにより、より多くの方にその機会を提供できると考え、本企画を提案しました。		

事業内容	▼8月にはギャラリーシビックで展覧会を開催しました。開催規模は昨年度同様。 区内障害者施設のアート作品を精選し、文京シビックセンター1階の展示室で作品展と併催のワークショップを開催しました。区内障害者施設に作品提供を呼びかけ、出展作品を回収・精選し、展示プランを立てました。作品の利用に際しては、施設職員のみなさん経由で作家のご家族への承諾をいただきました。出展作品をモチーフとして、文京アートプロジェクトが告知用のチラシとポスターを作成。ポスターは各区内施設（図書館やアカデミー施設等）へ配布し掲示依頼したほか、開催前１週間には区設掲示板とBぐる車内へ掲示しました。 作品展当日は、NPO PARCの協力のもとアート・コミュニケータを配置し、来場者と対話による鑑賞を随時行い、作品への理解を深めました。適宜ギャラリー周辺での呼びかけなども行いました。 NPO PARCによるオリジナルツールを使った鑑賞サポートや、タップタップラボの協力によりiPadを使って聞こえない方には筆談での対話型鑑賞も行いました。 来場者に体験いただける場として、模写による缶バッジ作りのワークショップを行いました。展示作品の一部に名画の模写を取り入れたことから、来場者にも同じ体験をしていただく趣旨でした。缶バッジを成果物とすることにより、作品が街にも持ち出される効果もありました。 昨年度に来場されたというリピーターの方も多くいらっしゃいました。掲示板のポスターを見て訪れたという声も複数ミッ見にしました。 ▼11月には江戸川橋周辺のスペースを使い、回遊型の展覧会を開催しました。 夏の展示作品からピックアップした作品に新たな作品も加え、６箇所の拠点に分散させて展示をしました。チラシに鑑賞のヒントとなるクイズと地図を掲載し、参加を促しました。 作品を使ったワークショップやグッズ販売にも取り組みました。施設職員の方にも販売に参加していただきました。
協働団体 or 利用者の声	**〈夏の展示の来場者〉** ・素晴らしい活動、ぜひ継続して開催してほしい（複数回答） ・近所の掲示板でポスターを見てとても気になっていた。実物が見られて嬉しい（複数回答） ・昨年度も来場しとても楽しかったが、今年の作品も面白い ・昨年度作品が展示されてから、すごく積極的に創作に取り組むようになった（作者の家族） ・作品を購入したい ・作品のグッズが欲しい（複数回答） ・区役所で開催してくださるのがとても嬉しい ・コミュニケータの方が対応してくれたので、子どもも飽きずに楽しめていた ・一緒に観て感じたことを伝え合うことがとても楽しかった **〈秋の展示の来場者〉** ・チラシにクイズが載っていたので、実物を確かめたくて参加した（複数回答） ・ギャラリーの静謐な環境とはまた異なる見え方で楽しい展示だった ・展示の仕方がユニークでとても楽しめた ・回遊する楽しさがあった ・伝統工芸とのコラボレーションが素晴らしかった。このきっかけがなければ工房も知らなかった ・（アートフェアを回っていたが）こちらのアール・ブリュットの方が面白かった 〈協働団体〉 ・工房を知っていただく良い機会になった。コラボで作成した版木は今後も様々なイベントで活用したい（高橋工房） ・今年度に開設したばかりの施設なので、地域と関われる良い機会になった（あんしん生活拠点） ・近くにありながら、これまでこうした関わりは持てていなかったので嬉しい。継続して展示をしてほしい（文京水道郵便局）
協働による効果	アカデミー推進課の協力により、ギャラリーシビックという恵まれた環境で展示を行うことができました。BunkyoBrut を知ってもらうために、区民の行き交う区役所で継続開催ができたことはとても有り難く、Bぐるや区設掲示板にポスターを掲示できたことも大きかったです。 区内障害者施設の協力により、充実した展示作品を集めることができました。作者（＝施設利用者）やその家族が一般区民と交わる貴重な機会ともなりました。 秋の展示では、高橋工房のほか、郵便局やあんしん生活拠点など、地域の団体や施設と協働できたことが意義深く、作品を常設していただくことでアートを生活の一端に交わらせる効果があったと感じます。また作者と一緒に作品搬入をしたことで、施設への理解も深まったと感じています。
成果目標の達成度	「シビックセンター・ギャラリーでの展覧会を開催し、アートコミュニケータによる対話型鑑賞やワークショップも取り入れることで、様々な層の参加者に来場いただき、作品の感想などを共有する」という当初目標は概ね達成できており、昨年度より継続開催したことで少しづつだがスタイルの定着にもなりつつあると感じています。 昨年度に来場者アンケートや当日会場での聞き取りなどで作品をグッズ展開してほしいという声を多く寄せられたことから、ギャラリーシビックではハートフル工房のPRを積極的に行いました。（施設へのまとまった数の電話注文などもあったと報告を受けた） 秋には直接販売の機会も作り、施設職員にも参加していただいて展示会場でのグッズ販売を行い、好評を得ました。 開催後に、「うちでも展示してほしい」という声も複数いただきました。 今回の拠点の一つの郵便局には常設展示をしていただけることになりました。

今後の活動予定	多くの方の目に触れる機会の提供として、ギャラリーシビックでの定期開催は継続したいと考えています。展示内容にはさらに工夫を加え、見えない方に触って干渉していただく仕組みなども取り入れていけたらと構想しています。 シビック以外での展示も引き続き検討したく、お声かけいただいたところとは個別に相談しつつ進められたらと考えます。気になるスペースがあれば積極的なアプローチも続けていきたいと思います。 将来的には作品収集を公募形式にするなどして、作品の母数を増やす努力をしていきたい。また、展示作品をモチーフとしたブランディングにも取り組み、雑貨などの商品開発にも繋げていきたいという当初の考えは引き続き検討したいと思っています。

別紙１：事業スケジュール(報告版)
別紙２：収支報告書
別紙３：関係者マップ

※追加別添１：この事業を通じて制作したチラシなどのデータ
※追加別添２：この事業の様子が分かる公開可能な写真データ（10枚以内）

【提出先】
E-mail：fumikomu@bunsyakyo.or.jp　問合せ：03-3812-3044（担当：近藤、田邊）

別紙１：事業スケジュール(報告版)

団体名：文京アートプロジェクト

実施内容　/　月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画打ち合わせ（PARC）	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
作品選出（区内施設）	●	●	●	●	●		●					
会場検討（シビック/拠点）	●	●	●		●	●	●					
広報計画			●	●	●	●	●	●				
広報（含む町会等交渉）		●	●			●	●					
チラシ、ポスター等作成			●	●	●	●	●					
展示計画				●	●		●	●				
ワークショップ等準備				●	●		●	●				
展覧会開催					●			●				
次年度に向けた打ち合わせ										●	●	●
スピンオフ展示（郁文館高校、小石川図書館）							●		●	●	●	
スピンオフ展示（文京水道郵便局）							●	●	●	●	●	●
スピンオフ展示（Tokyoボランティアフェスタ）												●
フミコム/関係課との会議	●		●	●	●	●	●		●	●	●	

＊列の数・行の幅は必要に応じて変更してご記入下さい

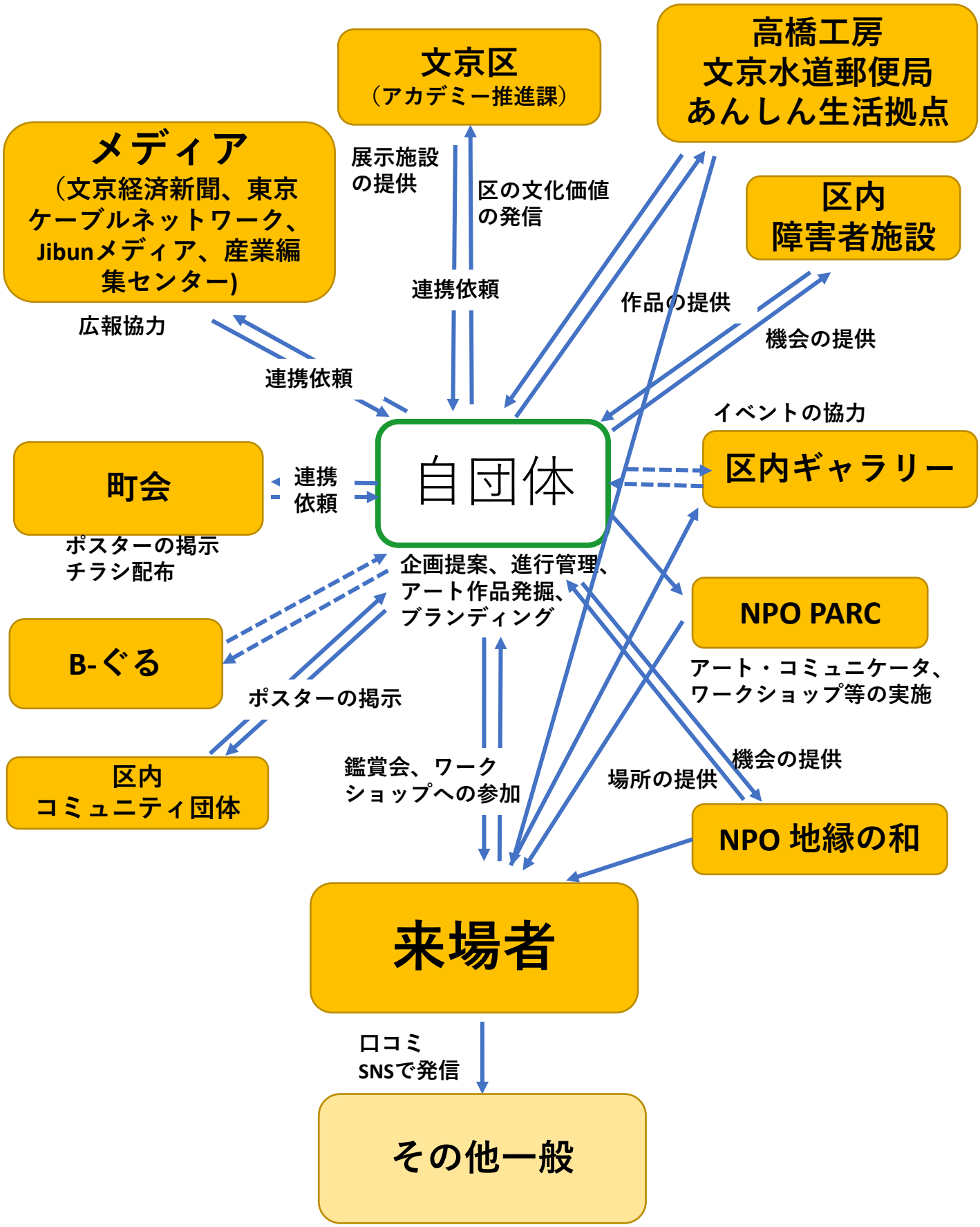
別紙２：収支報告書　**団体名：**文京アートプロジェクト

収入　991,003 円

費　目	予 算 額	積　算　根　拠
「Bチャレ」助成金	880,000 円	ワークショップ参加費以外の支出補填
WS参加費・物販	85,670 円	ワークショップ参加費、グッズ売上
文京アートプロジェクト	25,333 円	団体活動費

支出　991,003 円

費　目	予 算 額	積　算　根　拠
ポスター・チラシ作成費	225520 円	B3ポスター・A4チラシ（両面）、ポストカード デザイン＋印刷　（夏＝128,550、秋＝96,970）
パネル等掲示物作成費	61509 円	パネル・キャプション・カッティングシート等 （夏＝55,531、秋＝5,978）
展示用備品	39453 円	額縁、金具等、展示用備品 （夏＝34,340、秋＝5,113）
WS・物販用材料費	99616 円	缶バッジパーツ、うちわ、シール、用紙（夏＝22,572）
設営委託費	60000 円	夏のみ
iPad使用料	24000 円	夏＝3,000×3台×4日 秋＝3,000×3台×4日
コミュニケータ謝金	442000 円	夏＝5,000×10人×4日＋3,000×8人×1日 秋＝5,000×10人×4日＋3,000×6人×1日
雑費	38905 円	輸送費、郵便、コピー等 （夏＝23,640、秋＝15,265）

別紙３：関係者マップ(報告版)

作成日：　1月　14日